

2008年(平成20年)

### 地上19階の入院棟完成

三井記念病院建替え工事の起工から約2年の歳月を経た2008年(平成20年)9月、工事の要である地上19階・地下2階の「入院棟」が竣工を迎えました。入院棟は、低層部に中央診療機能、高層部に入院機能が集約されており、高度医療、療養環境整備、運用体制の効率化、建物の安全性確保など、様々な最新技術が採用されています。外観はオフィスビルやホテルをイメージし、都心施設との調和が図られました。(続く)



入院棟

原点にあり続けるのは、  
患者と医療者が  
「ともに生きる」こと。



社会福祉法人  
**三井記念病院**

〒101-8643 東京都千代田区神田和泉町1番地 TEL:03-3862-9111(代表)  
<http://www.mitsuihosp.or.jp/>



# ともに 生きる

Mitsui Memorial Hospital

vol.21  
2017年1月号

【特集】がんに立ち向かう

## がん診療センター

●専門家が語る  
がん診療センターが目指すもの  
—患者の最善のアウトカム—

●教えて!とも子さん  
車いすの使い方

●ひとさじの工夫  
ウイルスに負けない身体づくり

●三井記念病院の登録医紹介  
新小岩駅前総合クリニック



# 智 情 意

[ chi · jyou · i ]

前回の東京オリンピック直前である1963年東京の荒川放水路沿いの工場街で生まれた。生家も町工場で父親は夕方まで油まみれで働いていた。生まれる前年、川の数キロ上流を舞台に吉永小百合さんを主演に映画「キューポラのある街」が撮られ、近所でもロケをしたらしい。出来あがった映画を両親も鑑賞し感じ入ったそうだ。レビューによると「鑄物職人の娘ジュンが、父の解雇に始まり、貧困、進学、組合、差別など、さまざまな社会問題に直面する。しかし決してめげることなく、まっすぐに青春を堪能していく姿を感動的に描いた、社会派青春映画の名作である。」とある。当時の日本は高度経済成長期と習ったはずだが、それでも多くの人達が両親同様額に汗して日々を送り、こんな映画に共感するような環境にいたのだろうか。私と言えば子供のころは病弱だったようで2度救急車で搬送された記憶がある。行くと必ず痛いことをされるので医者と病院は大嫌いだった。

20年ほどが経過し、日本の産業構造の変化が周辺の町工場は生家も含めて殆ど見かけなくなり、映画で見る社会問題は現実離れし、そして自分はあれだけ嫌いだった医者になっていた。大学を卒業し内科に進路を決めたが、消化器内科に誘ってくれた現獨協学園理事長寺野先生の「君はあそこが一番向いている」の一言で研修先は三井記念病院となった。当時の三井記念病院は今にして思えば心臓血管外科の須磨先生(ドラマにもなった有名な先生)、脳神経外科御存じ「神の手」福島先生、循環器内科心臓カテーテルの



消化器内科部長、内視鏡部部長

戸田 信夫

山口先生、消化器内科は鶴沼先生などなどきら星のようにSuper-starがおり、そこに集う医師、技師さらには看護師とも志が見上げる程に高かった。「有名な病院」程度の認識で来てしまった私は当初どこが向いているのだろうかと頭を抱えた覚えがある。3年間の研修であったが良く持ったものであると今でも思っている。

その後母校に戻ったが、幾つかの施設を数年刻みで移動した。大学の医局に属すると、関連する市中病院に一定期間出向する習わしがある。会社勤めの転勤と似たようなものであろうか。非常に幸いだったのが行く先々に自分が専門とした消化器学の柱をなす内視鏡、放射線診断学、これらを用いた治療、さらに外科分野など超一流の先人がいたことだ。誰も手とり足とり教えてくれはしなかったが、彼らの技術を間近に見られたことに加え、ひとつの症例に対して彼らがどう考え、如何にアプローチしていくかの過程を、実診療を通して知ることが出来た。計り知れない経験を積めたが、これも三井記念病院での3年間の土台があったからだと思えてくれた寺野先生には感謝している。

和洋含めて医学教科書は膨大な数があり、大きな書店に行けば医学書だけでワンフロアを占めている。しかし文書の知識だけでは医学は成り立たず臨床実地経験が必要である。自分が積み上げてきた経験を、次の世代に伝えることが、多くを遺してくれた優れた先人達、そしてなにより額に汗して人生を送り、その最後に私に経験を積ませてくれた患者さんたちへの心ばかりの恩返しだと思っている。

特集

がんに立ち向かう

第7回

## がん診療センター

がんは1981年から日本人の死因第1位であり、国民病ともいわれています。国はがんを克服するために、2006年に「がん対策基本法」を定め、「がん対策推進基本計画」による様々ながん対策を進めてきました。こうした背景をもとに、三井記念病院はがん診療体制を強化し、がん患者さんやご家族中心の医療やケアに取り組むため、2015年6月に「がん診療センター」を設立しました。

がん診療センターは、病院一丸となって診療科・部門の垣根を越えたチーム医療を推進しています。がん患者さんとそのご家族にとって、最善の治療を追求し、質の高いがん医療やがん看護を提供することを目指しています。

### Interview



小林 隆 医師

がん診療センター センター長  
消化器外科 部長



榎本 裕 医師

がん診療センター 副センター長  
泌尿器科 部長



三浦 剛史 医師

緩和ケア科 部長



赤塚 壮太郎 医師

臨床腫瘍科 科長

軽部 雅崇 医師

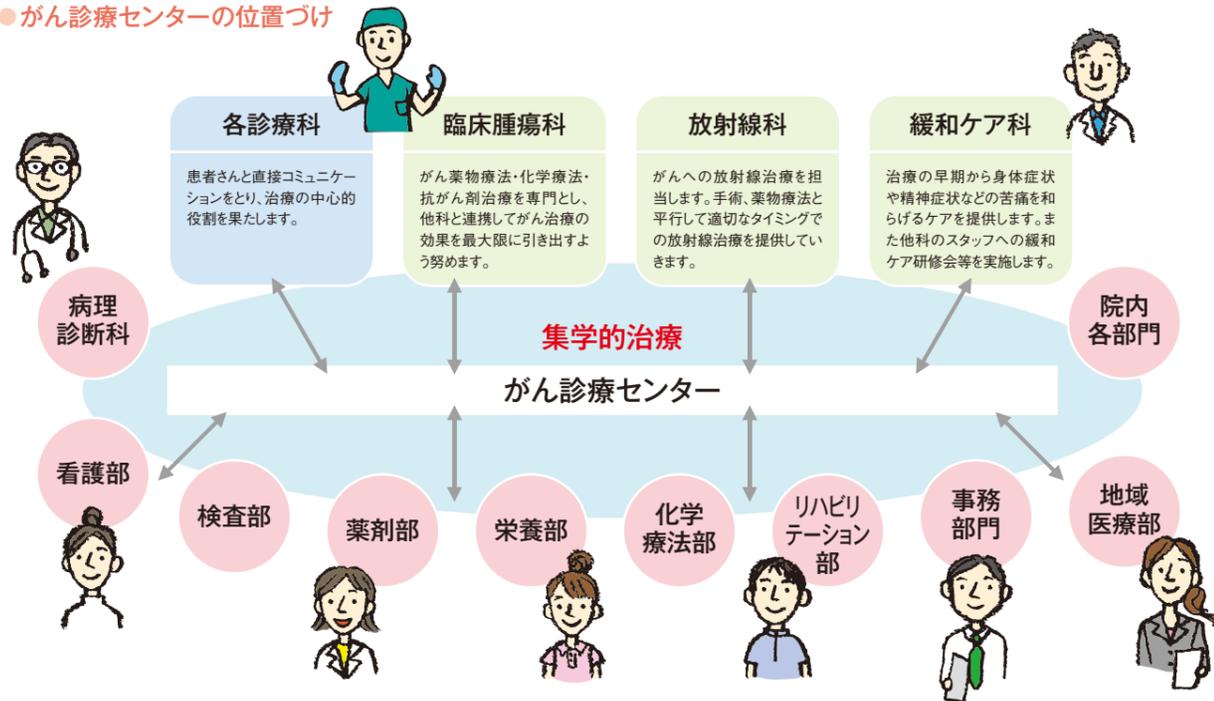
放射線治療科 医長

三井記念病院はがん治療における手術、放射線治療、化学療法などの実績が評価され、2011年4月から「東京都がん診療連携拠点病院<sup>※</sup>」の指定を受けています。

今回、広報誌「ともに生きる」では、これまで以上にがんに対してチーム医療を推進するために設立された「がん診療センター」を特集しました。

※東京都がん診療連携拠点病院とは、都民に高度ながん医療を提供するため、国が指定するがん診療連携拠点病院と同等の診療機能を有する病院を「東京都がん診療連携拠点病院」として、東京都が独自に認定した病院です。

●がん診療センターの位置づけ



がん医療に関わるスタッフが  
一丸となるための組織

—がん診療センターの役割は何でしょうか？

がん診療センターは、がん疾患に関連する全ての診療科、部門をまとめ、組織横断的にがん診療、がん看護を推進する部門です。がん診療センターの役割は、がん患者さんやご家族を中心に最適な治療を行い、療養生活を整えることです。そのため、1国の施策に沿った院内体制の強化、2がん患者さんとそのご家族に質の高いがん医療を提供すること、3院内の様々な課題を組織横断的に解決することを目指しています。

私たち医療者は、がん患者さんやご家族の意向をしっかり伺い、一人ひとりの病気や生活に合わせた適切な治療を提供しなければなりません。患者さんのニーズも多様になり、それに応えるためにも皆で力を合わせ最善の治療を行うことが必要だと考えています。また、よりよいがん診療のために、各診療科や部門と協力し、適切な人材が適切な部署で働けるような組織づくりを目指しています。がん診療センターという部署ができたことによって、病院全体でがんに関する課題や情報の共有、課題解決のための体制が強化されました。

—がん診療センターは、どのような活動を行っていますか？

がん診療センターは、直接診療を行う部署ではなく、中長期的な計画を立てて活動しています。化学療法のレジメン(投与方法)の標準化、がん診療センターの強化、がん関連教育の推進、がん患者さんへのリハビリ強化や早期からの緩和ケアの推進等に取り組んでおり、2年前からは学童を対象に、年1回がんについて学習する会を開催し、がん教育に関する啓発活動も行っています。

センターの活動は、東京都が定める「がん対策推進計画」に基づいており、患者さんのニーズに応えチーム医療が円滑に行われるよう、各部署に働きかけ機動力を活かし推進しています。また、院内のがん診療体制を変更するといった組織的な変革が必要なきもセンターがバックアップします。がん患者さんに直接関係することとしては、「がん診療センター」の適宜開催が挙げられます。

—がん診療センターではどのようなことが行われますか。患者さんにとってのメリットは何でしょうか？

がん診療センターとは、「手術、放射線療法及び化学療法やその他の専門的な知識や技能を有する医師や医療関係者が、がん患者さんの症状や治療方針等を意見交換し、検討す

るためのカンファレンス」を指します。医師は、標準治療<sup>※2</sup>の診療を心がけていますが、患者さんの最善のために、決して独りよがりにならず、柔軟かつ謙虚な姿勢で診療に臨んでいます。標準治療とは、科学的根拠に基づき最良の治療であるとされた一定の状態にある患者さんに行われる治療をいいます。

しかし、すべてのがん患者さんに標準治療が適切だとは言えません。がん患者さんには、高齢でがん以外の病気をいくつも抱える方も多く、標準治療が適応とならない場合があります。また、患者さんの価値観やライフスタイルが多様化し、標準治療を望まない方もいらっしゃいます。なかには、認知症があり自分で治療を決定することに難しさを感じる患者さんもいらっしゃいます。こうしたがん患者さんは、医師だけでなく多職種が集まり身体的、社会的、精神的な側面を考慮した上で、患者さんにとって最善の医療を目指すためにカンサーボードを開催しています。当院のがん診療センターでは、各診療科の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカー(MSW)といった様々な職種が集まり、患者さんの生活状況や価値観、治療後のサポート体制についても意見を出し合い、患者さんにとって一番望ましい治療方針を考えていきます。がん診療センターはがん患者さんとそのご家族にとって非常にメリットのあるカンファレンスだと思います。

質の高い集学的治療を目指し、  
多職種の連携を強化

—がん診療センターには、様々な部門が所属していますが、緩和ケア科、臨床腫瘍科、放射線治療科が所属する理由について教えてください。

「がん」の治療には、外科療法(手術)、化学療法(抗がん剤)、放射線療法、免疫療法等様々な治療があり、いずれか1つの治療でがんを十分に治療することは難しいとされています。そこで、これらの2つ以上の治療方法を組み合わせて行う治療を「集学的治療」と呼び、より高い治療効果を目指しています。

がんは集学的治療が基本です。そのため、がん診療センターに臨床腫瘍科、放射線治療科、緩和ケア科が所属し、担当の診療科と連携することで、がん患者さんの治療の幅を上げ

ています。緩和ケアは、患者さんががんと診断されたときから身体的・精神的・社会的な苦痛を和らげ、治療と並行して行われます。そのため、緩和ケアは緩和ケア医だけが行えばよいものではありません。国は、がん診療に携わる医師に対する「緩和ケア研修会<sup>※3</sup>」を開催し、90%以上の医師の修了を目標に掲げています。当院の緩和ケア研修会修了医師は約95%であり、100%を目指しています。緩和ケア研修会を修了した医師が増えることにより、より多くのがん患者さんに質の高い緩和ケアを提供することができます。緩和ケア研修会に参加するよう各診療科に働きかけることもがん診療センターの活動の一つであり、こうした活動の先にはがん患者さんに提供される診療の質を上げる狙いがあります。

—がん診療センターが今後目指す姿を教えてください。

センター設立から1年半が経過しました。国の施策に基づく取り組みは着実に実現できています。がん患者さんの最善を考えるために多職種が話し合う土壌も出来てきました。とはいえ、他の病院にはないような画期的な取り組みを提供するにはまだまだ発展途上であると考えています。今後とも、がん患者さんご家族にとって最善、最適な治療を提供できるように努めていきます。

<参考>

※1 がん診療センター:厚生労働省 健発第0301001号  
平成20年3月1日がん診療連携拠点病院の整備について  
※2 標準治療:がん情報サービス<http://ganjoho.jp/public/index.html>(H29.1.16)  
※3 緩和ケア研修会:厚生労働省 健発0401016号  
平成20年4月1日がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針



がん診療センターのメンバー

「がん対策基本法」が制定され、国民のがん医療やがん看護に対する期待は非常に高まっています。三井記念病院は、国民のニーズに応える体制を整えるためにがん診療センターを設立しました。

がん診療センターにおけるがん看護専門看護師の役割についてご紹介します。がん看護専門看護師は、「実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究」の6つの役割を担っており、がん診療センターでは「調整」が主な役割になります。調整とは、「必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションを行う」と定義されています。

この調整機能をフルに発揮し、がん診療に関わる全ての診療科や部門に働きかけ、がん患者さんに提供する医療やケアの総和を高め、患者さんにとって最善のアウトカム(結果)を目指しています。がん診療センターは、国民のニーズに応えるために院内のがん診療体制を強化する部署ですが、その役割は、施策に基づいた医療やケアの実現だけにとどまりません。各診療科の診療の要望や、さらにはがん患者さんやご家族の様々なニーズに応え、QOL(Quality of Life: 生活の質)を向上する役割を担っています。患者さん一人ひとりにとって最善の医療が行えるよう、「円滑なコーディネーションを行う調整役」を担うのが、がん診療センターにおけるがん看護専門看護師の役割です。

当院は、「患者と医療者がともに生きること」を医療理念とし、患者を中心としたチーム医療を推進しています。がんと診断されて不安や恐怖、孤独感に苦しまず、ぜひ、近くにいる医療者に声を掛けるか、がん相談支援センターを利用してもらいたいと思います。

### がん患者さんやご家族へのメッセージ

がん診療センターでは、がん患者さんの治療や療養生活を支えるために、院内の必要な医療やケアを整備したいと考えています。がん患者さんやご家族がお困りのことやこうしてほしいなどの要望を教えてください。院内の投書箱、またはがん相談支援センターにご相談ください。



Interview  
柏田 孝美  
がん看護専門看護師  
2010(平成22)年  
がん看護専門看護師認定

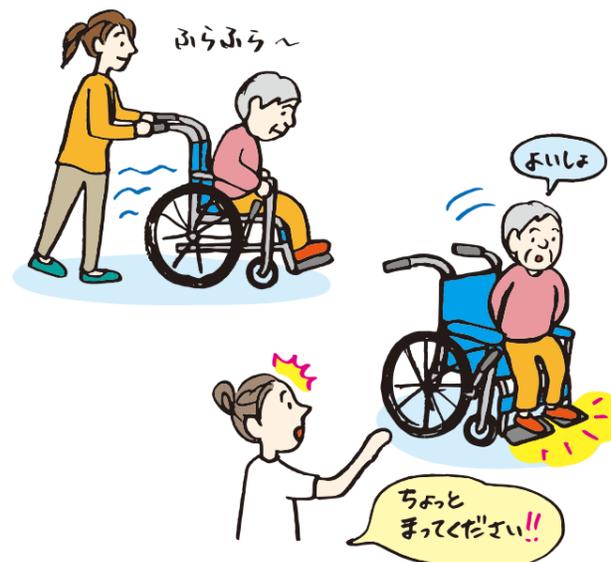
# 「がん診療センターが目指すもの」 「患者の最善のアウトカム」 専門家が語る



## 「車いすの使い方」

皆さんは車いすに乗ったり、押したりしたことはありますか。ケガや病気で歩くのがつらい時の移動に便利な車いすですが、使い方を間違えると転倒や転落の危険性があります。正しい使い方を覚えて、安全に車いすを使用しましょう。今回は病院に置いてある車いすを例に、使い方のポイントを紹介합니다。

### ▶ロビーでのコマ



車いすに乗り疲れた様子のおばあさん。そのまま立ち上がろうとしているところに看護師が慌てて駆け寄りました。

看護師「乗り降りには注意が必要です。普段の車いすの姿勢も良くないので、気をつけてくださいね。」



「正しい姿勢で車いすに乗りましょう! ブレーキをかけずに車いすに乗り降りしたり、足置きの上に立ち上がると危険ですよ!」

### ●正しい姿勢を心がけましょう

正しい姿勢で座ると楽に長時間乗ることができます。また、肘掛けの中に肘をしまうことで、周りの人にぶつかる危険を回避することができます。



### ●乗り降りの前にブレーキをかけましょう

タイヤが固定されていないと、車いすが急に動いて、転倒事故のもとになるので、しっかり確認しましょう。



### ●足置きには立ち上がらないようにしましょう

足置きの上に立ち上がると、バランスを崩し、車いすと転倒する危険性があります。乗り降り時は足置きを上げてから行ってください。



▶病院内での乗り降りの際はスタッフがサポートしますので、お声かけください。

当院では、車いすや杖を使用しているなど、転倒の危険リスクの高い患者さんには黄色いリストバンドをつけ、安全の見守りをさせていただいております。



# 冬の感染症対策 ウイルスに負けない身体づくり

空気が乾燥する冬は、インフルエンザをはじめとした感染症が流行します。マスクや手洗いがいによってウイルスを体内に入れないようにすることに加え、普段の食事から予防・対策することも大切です。

## まずは基本が大切! 1日3食、栄養バランスのよい食事をしっかりとりましょう。

ウイルスに負けない身体になるには、休養と食事をしっかりとり、疲れていない身体であることが基本です。主食+主菜+副菜のそろった食事が、栄養バランスの良い食事となります。3食きちんと食べ、忙しくても食事を抜かないようにしましょう。また、栄養素は1種類だけ摂取しても活躍できません。様々な栄養素をバランスよくとるよう心がけましょう。

### 野菜や果物のビタミンは感染症予防の効果があります



#### ビタミンA

にんじん、かぼちゃ、ほうれん草、豚レバー



#### ビタミンC

みかん、いちご、黄・赤ピーマン、ブロッコリー

エネルギー源となる炭水化物、たんぱく質もウイルスに負けない身体づくりには大切ですが、野菜や果物等に含まれるビタミンは感染症を予防する効果があります。

ビタミンAはのどや口、鼻の粘膜を強化し、敵の侵入から身を守るはたらきを助けます。またビタミンCには病気に対する免疫力を高める効果があります。

### 身体が温まるものを食べましょう。もしもの時に備え簡単に食べられるものを用意しておきましょう!

- 寒い時期には温かいものを食べましょう。しょうがやとうがらし、ネギやニラは身体のポカポカを持続させるはたらきがあります。鍋や麺類がおいしい季節ですが、汁物は塩分が多いので食べすぎには注意が必要です。
- ウイルスに感染してしまった場合に備えて、簡単に食べられるものを日常的にストックしておくことも重要です。みかんやキンカンなど、すぐに食べられる果物や冷凍食品を常備しておきましょう。野菜も冷凍しておく、体力が無く買い物や料理が出来ないときにも便利です。
- 風邪のときには水分補給が大切です。下痢の症状があるときには、ミネラル分を含むスポーツ飲料がオススメです。



冬に定番のみかんやいちごで手軽にビタミンを補給しましょう。



Interview  
栄養部 管理栄養士  
鋪田 今日子

三井記念病院の栄養部では、栄養指導・食事相談を受け付けています。ご希望の方は主治医にご相談ください。



## 三井記念病院の 登録医紹介

三井記念病院では、地域医療機関との相互連携を一層密にし、医療を必要とする患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療提供の実現を目指しています。このコーナーでは、三井記念病院の登録医としてご協力いただいている先生方を紹介していきます。

### 新小岩駅前総合クリニック

お年寄りから子どもまで幅広い世代のあらゆる疾患に対応するファミリークリニックとして、地域の皆さんに親しまれている新小岩駅前総合クリニック。総院長の野口先生は、総合診療医として患者さんの生活に寄り添った診療を積極的に提供されています。



Interview  
野口 千明 医師



- 総院長：野口 千明(のぐち ちあき)
- 住所：東京都葛飾区新小岩2-1-1  
リーフコンフォート新小岩3階
- TEL：03-5678-5616
- 診療内容：内科、整形外科、小児科、皮膚科、栄養相談
- 診療時間：月・水・木 09:00~21:00  
火 09:00~19:00  
土・日・祝 09:00~12:00, 13:00~15:00
- URL：http://towakai.com/jyoutou/index.html

#### — 先生の専門領域はなんですか？

専門は消化器外科ですが、これまでに一般外科等でも経験を積んできました。一般外科では、手術を施す前に患者さんをよく診察し、他に病気がないか、手術のリスクや術後の合併症リスクはどうか等を事前にしっかり見極める経験を積むことができました。

現在は、プライマリーケアといって、地域の皆さんの年代や性別、病気の種類を問わず診療をする総合診療医をしています。

#### — 診察で特に意識されていることはありますか？

近年は、共働きやひとりで子育てされている方、働きながら介護をされている方など患者さんの社会背景が複雑です。お節介りかもしれませんが、患者さんの話をよく聞き、抱えている問題を解決できるよう、患者さんの社会背景に関与することを意識しています。

患者さん一人ひとりの事情をふまえて、なるべく生活への負担が少なく

済むような診察、治療を行うことを心がけています。

#### — 独自の取り組みがありましたら教えてください。

当院は患者さんの生活スタイルに合わせて、平日は夜9時まで開いています。土日祝日も診察を行っており、患者さんが通いやすい環境を整えています。

また医師の教育にも力を入れています。若手の医師が診察した患者さんのカルテは、なるべくその日の内に私が再度見直し、患者さんに適切な診察や治療ができているか、きちんと患者さんの背景を汲み取った診察をしているか等を確認し、気になる点があれば指導しています。当院は長く通っている患者さんやご家族皆で通っていただいている患者さんもいらっしゃる、それぞれの病歴や事情が複雑です。若い医師たちにもプライマリーケアの視点で総合的に患者さんを診ることができるよう経験を

積んで欲しいと思っています。

#### — 地域連携についてどのようにお考えですか？

プライマリーケアは、地域医療連携のゲートキーパー(門番)だと思っています。患者さんが重篤な病気になる前に、当院のような役割のクリニックでまず患者さんの状態を把握し、健康を維持する。そして必要があればかかるべき病院を紹介し、治療が終われば、また戻ってきて社会復帰ができるよう、リハビリや体調管理を続ける。そのような地域での患者さんの生活を守る仕組みを作り上げたいですね。



クリニックの上階にはMRIセンターがあり高性能な画像診断も対応している。

## News

三井記念病院で開催した行事やイベントをご紹介します

2016.  
11

- 2016年11月2日(水) 第28回公開臨床病理検討会 開催
- 2016年11月4日(金) 心臓大動脈センター設立記念講演会 開催
- 2016年11月5日(土) 市民公開セミナー「知ってほしい～緩和ケア～」開催
- 2016年11月14日(月)～19日(土) JCI認定本審査 受審 (11月20日(日)JCI認定取得)
- 2016年11月18日(金) いずみサロン「自分らしい療養を考えよう」開催
- 2016年11月19日(土) 社会保険労務士に相談しよう!お仕事に関する個別相談会 開催
- 2016年11月23日(水) がん治療と就労の両立プロジェクト BCC架け橋大賞『CL部門賞』受賞
- 2016年11月26日(土) フルートトリオ「L'Allure(ラリーユ)」による ボランティアミニ・コンサート 開催
- 2016年11月26日(土) 市民公開講座「治療をしながら働くために【治療と仕事の両立支援セミナー】」開催

2016.  
12

- 2016年12月1日(木) クリスマスイルミネーション点灯式
- 2016年12月3日(土) 腎臓病教室「腎臓病と食事療法」開催
- 2016年12月8日(木) 「SUITE VOICE」によるクリスマスコンサート 開催
- 2016年12月16日(金) いずみサロン「ありがとうの手紙を書こう!」開催
- 2016年12月17日(土) 病棟クリスマスコンサート 開催

2017.  
01

- 2017年1月18日(水) 地域連携フォーラム 「がん患者に対する集学的治療から在宅治療まで」開催
- 2017年1月21日(土) 萩原守男さんによる歌とギターのボランティアミニ・コンサート 開催
- 2017年1月21日(土) さんとも会(前立腺がん患者会)開催
- 2017年1月28日(土) 社会保険労務士に相談しよう!お仕事に関する個別相談会 開催

## Pick Up!

2016年11月23日(水)

### がん相談支援センターがBCC架け橋大賞『CL部門賞』受賞

がん治療と就労の両立支援プロジェクト BCC主催の「第1回架け橋大賞」にて『CL部門賞』を受賞しました。当センターでは、病院と社会保険労務士が連携してがん患者さんへの就労支援を行っており、その取り組みが評価されての受賞となりました。

当院は、がんに限らずすべての患者さんの就労支援に取り組んでいます。お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先: がん相談支援センター、地域福祉相談室 03-3862-9111 (代表)



2016年12月8日(木)

### 「SUITE VOICE」によるクリスマスコンサート 開催

外来棟7階講堂にてコーラスグループ「SUITE VOICE」によるクリスマスコンサートを開催しました。当日は入院中の患者さんや地域の方など約100名が来場しました。「サンタが街にやってくる」や「サイレントナイト」などを披露し会場は華やかなクリスマスムードに包まれました。



## Pick Up!

2016年11月20日(日)

### 国際的な医療機能評価であるJCI 認定を取得

当院は2016年11月に国際的な医療施設認証機関であるJCI(Joint Commission International)の認定を取得しました。JCIは世界基準の質を担保し、安全な医療を提供していると認められた施設に与えられる認定です。

当院は、病院・大学病院プログラムとしては日本全国で17番目、都内では5番目の認定取得となりました。



三井記念病院のJCI認定証

### JCI認定取得を目指して

当院は2013年12月よりJCI認定取得を目指し始めました。世界標準の観点から多職種で今までのルールや手順を見直し、患者さんにより良い医療を提供するために改善をすすめてきました。

2016年11月14日から医師や看護師ら3人の審査官による本審査を受審しました。審査は通訳を通じて英語で行われ、病院内全ての場所、全職員が対象です。

審査では当院の方針・手順書に記載されている内容がJCIの定める基準を満たし、実践されているか、現場訪問や職員へのインタビューなどを通じて細かくチェックされました。6日間にわたった審査の結果、11月20日にJCI認定を取得しました。

今後も職員全員が医療の質の改善と患者安全に取り組み、当院の理念でもある患者さんと「ともに生きる」医療を実践してまいります。



審査中の様子



講評後の集合写真

### ▶JCI(Joint Commission International)とは

アメリカの医療機関を対象とした第三者評価機構の国際部門として1994年に設立された医療機能評価機構です。「国際社会における患者の安全と医療の質の改善」を目的として、世界各国で認定活動やコンサルティングを行っています。2017年1月現在、900以上の施設が認定を受けています。

### ▶JCI評価基準

JCI認定の審査項目は、患者さんを中心とした基準が8領域(第1章～第8章)、医療機関の管理基準が6領域(第9章～第14章)の合計14領域あり、合計1,146の判定項目があります。(病院プログラムの場合)

- |                          |                    |                    |
|--------------------------|--------------------|--------------------|
| 第1章 国際患者安全目標(IPSG)       | 第6章 麻酔と外科的ケア(ASC)  | 第11章 組織管理(GLD)     |
| 第2章 ケアへのアクセスとケアの継続性(ACC) | 第7章 薬剤の管理と使用(MMU)  | 第12章 施設の管理と安全(FMS) |
| 第3章 患者と家族の権利(PER)        | 第8章 患者と家族の教育(PFE)  | 第13章 職員の資格と教育(SQE) |
| 第4章 患者の評価(AOP)           | 第9章 品質改善と患者安全(QPS) | 第14章 情報の管理(MOI)    |
| 第5章 患者のケア(COP)           | 第10章 感染の予防と管理(PCI) |                    |



2016年10月～12月

### 皆さまから貴重なご寄付をいただきました

- |         |         |          |         |               |              |       |       |
|---------|---------|----------|---------|---------------|--------------|-------|-------|
| ▶個人     | 村山 良一 様 | 藤屋 ハツノ 様 | 杉浦 良枝 様 | ▶法人           | 株式会社タスクオプテカル | ▶匿名希望 | 20名   |
| 柘植 齊 様  | 山崎 裕子 様 | 黒畑 千代菜 様 | 塩崎 和代 様 | 株式会社タスクオプテカル  |              |       |       |
| 山本 環 様  | 市川 芳子 様 | 久保り江 様   | 戸邊 昭彦 様 | 一般財団法人凸版印刷三幸会 |              |       |       |
| 杉山 房子 様 | 宮井 孝子 様 | 福山 忠雄 様  | 志村 幸子 様 |               |              |       | (順不同) |

※当法人への寄付は、社会福祉事業のための寄付金として税制上の優遇措置が適用されます。詳しくは当院経理課までご相談ください。